

市指定文化財 新たに3件

市教育委員会では、市文化財保護委員会（荒木邦雄会長）の答申に基づき、2月28日、文化財3件を新たに市指定文化財に指定しました。
これで市内の文化財は国指定・登録などが38件、府指定・登録などが40件、市指定が111件の計189件となりました。
▶詳しくは、文化振興課（☎66・1019）へ。

明倫小学校正門（伝・旧明倫館正門）1棟 （区分：有形文化財建造物 所有者：舞鶴市）

田辺藩の藩校であった「明倫館」を前身とする明倫小学校の正門。屋根はゆるやかな膨らみを帯びている。建築年代は、使われている釘の種類や装飾の模様から江戸時代後期と考えられる。また、潜り戸と呼ばれる小さい扉を備える大型の門で、一般の住宅の門とは考えられず旧藩校の正門であった可能性が高い。城下町の歴史的景観を構成する要素として重要な建造物。



左側に潜り戸があり、門は本柱と控柱で支えられた薬医門形式で、屋根は切妻造、浅瓦葺で緩やかな曲線を描いている

舞鶴幼稚園資料 889点

（区分：有形文化財美術工芸品（歴史資料） 所有者：舞鶴市）

舞鶴幼稚園は明治17年（1884）に開園。現存では府下最古、全国でも6番目の歴史を持っている。指定資料は、ドイツの教育学者フレーベルが考案した明治時代の教育玩具や戦時中の紙芝居、戦前の園児の作品集、昭和2年（1926）日米親善のためアメリカから贈られた青い目の人形など、明治から現代までの数多くの幼児教育資料からなり、種類も多様で全国的にも貴重な資料群。



青い目の人形は昭和初期に米国から贈られたが戦時中に敵国の人形として廃棄されるなどし、現存するものは貴重



▲紙芝居「クウシフ」と園児の作品「防空演習」

▲フレーベルが考案した教育玩具の金属製の環

朝代神社祭礼平野屋太神楽関係用具 一括

（区分：有形民俗文化財 所有者：平野屋自治会）

平野屋太神楽は、獅子舞と曲と呼ばれる放下芸（曲芸）で構成され、元禄9年（1696）以前から平野屋町によって朝代神社の祭礼で奉納されてきた伝統行事。関係用具は獅子舞で使用する獅子頭と獅子頭を運ぶ輿、巡行や獅子舞の際に叩く太鼓や縮太鼓、篠笛、楽譜など。輿は文化3年（1806）のもの。これらの用具は住民が獅子舞と曲を独自に発展させてきた芸能の歴史や全体像がうかがえる資料として貴重。



▲獅子舞で使う獅子頭雄（上）と雌（下）

▲太鼓

▲縮太鼓

▲獅子頭などを運ぶ輿

6次産業化推進アドバイザー支援希望事業所を募集

地域の魅力を生かした商品づくりを

市では、「地域のブランド力を生かして農林水産品を売り出したい」「魅力ある新商品を開発したい」「効果的な広告、販売に取り組みたい」といった思いの実現をサポートする6次産業化推進アドバイザーの支援を希望するやる気のある事業所を募集しています。

【期間】 来年3月まで

【内容】 アドバイザーや分野ごとの活動パートナーによる月1回程度の助言や提案

【対象】 市内の農林水産事業所・者

【定員】 若干名・事業所（多数の場合選考）

【料金】 無料

【申し込み方法】 4月21日（金）までに申込書（農林課に備え付け、市ホームページからダウンロード可）に必要事項を記入し、郵送かファクスで同課（☎66・1023、FAX 62・9891）へ。

◆頼れる6次産業化推進アドバイザー

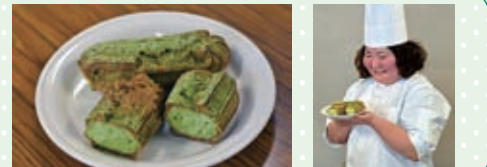
6次産業化推進アドバイザーに就任した吉田修さんは、三重県の「伊賀の里モクモク手づくりファーム」の前専務理事で、外国産の安い豚肉に対し、価格競争ではなく「おいしさと安心の両立」をテーマに消費者の心をつかみ、無添加ハム・ウインナーなどの地域ブランドを展開。農業・畜産業（1次産業）、ハム・ウインナーや地ビールの加工・製造（2次産業）、それらの販売や外食産業（3次産業）を全て担う6次産業で同ファームを年商50億円、会員4万5千人のアグリビジネスネットワークに育て上げた。
国土交通省「観光カリスマ百選」や経済産業省「地域産業おこしに燃える人」も受賞されています。
活動パートナーとして、ブランドマーケティングを織田英嗣氏が、デザイン・ウェブを坂井治美氏が担当。



▲吉田修さん

昨年度の新商品の一つを紹介

5年連続日本一を獲得するなど、舞鶴ブランドの一つである「舞鶴のお茶」を使用した新商品「抹茶エクレア」をアドバイザーとともに開発。ふるるファームで販売しています。



コンテナ取扱量が過去最高の11,493TEUに

7年連続で1,000万ト超 平成28年の京都舞鶴港取扱貨物量



◆取扱貨物量（京都府発表）

平成28年（1～12月）における京都舞鶴港の取扱貨物量は、全体で1,082万ト。7年連続で1,000万トを超えました。また、コンテナ取扱量は、11,493TEUで、過去最高を記録。港周辺企業が新たに京都舞鶴港を利用したことで、韓国コンテナや一昨年から運航が始まった日韓露国際フェリー等の利用が増加につながったものです。 ※数値は速報値のため、変動する場合があります。

【貨物量および主要貨物の状況】（単位：千ト）

区分	平成28年	前年比	摘要
総数	10,829	98.1%	7年連続1,000万ト超
外貨	4,700	97.7%	
石炭	4,152	96.8%	火力発電所点検による一時休止に伴う減
再利用資材	49	227.6%	古紙、スクラップの増
中古車	68	121.3%	日韓露国際フェリーでの取扱増
内貨	6,129	98.4%	フェリー以外にはセメント、石炭灰等
北海道フェリー	4,914	100.1%	内貨貨物全体に占める割合：80% 昨年とほぼ横ばい

【コンテナ取り扱い量】

区分	平成28年	平成27年	増減	前年比
コンテナ取扱量	11,493TEU	8,620TEU	+2,873ト	133.3%
コンテナ貨物量	232,008ト	176,068ト	+55,940ト	131.8%

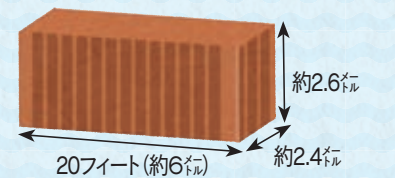
◆輸出入総額（大阪税関舞鶴支署発表）

輸出総額は370億円。原動機や金属製品が増加した一方、船舶類や金属くずは減少しました。輸入額は553億円。非鉄金属や木・コルク製品等が増加した一方、石炭や電気機器等は減少しました。

【貿易額】

区分	平成28年	平成27年	伸率
輸出	370億円	387億円	-4.5%
輸入	553億円	637億円	-13.3%

TEU：長さ20フィートコンテナを基準(1TEU)とするコンテナの取り扱い個数の単位



▶詳しくは、みなと振興・国際交流課（☎66・1037）へ。